



第4回 飯田市地域史研究集会を開催します

今年は建築家の安藤忠雄さんの講演を中心に、「歴史のなかの町並みと建造物」をテーマにシンポジウムを行います。

8/26(土)
～27(日)
2006

シンポジウム 歴史のなかの町並みと建造物

8月26日(土) 午後1時～5時

- 記念講演 「まちづくりは対話から」
安藤忠雄 (建築家)
- 報告 「信濃の城下町建築」
吉澤政己 (信濃建築史研究室代表)
- コメント 伊藤 毅 (顧問研究員・東京大学教授)

研究報告会

8月27日(日) 午前9時30分～午後5時

午前の部 午前9時30分～

- 「建築の魅力と美学」
金澤 雄記(歴史研究所研究員)
- 「地域材の家づくりで考える南信州の景観」
新井 優(新井建築工房代表)
- 「風土・文化・まち・ひと・建築」
木下 光(環境プランニング 代表プランナー)

休憩・昼食

午後の部 午後1時20分～

- 「近世農民の財産について―相続や離婚をめぐる―」
塩澤 元広(歴史ゼミナール 近世史ゼミ)
- 「大日本実行会の成立」
粟谷 真寿美(近代史研究者)
- 「戦後初期、下伊那地域の養蚕農協」
坂口 正彦(國學院大学博士課程)
- 「遠山大地変と埋没林」
村松 武(美術博物館学芸員) 寺岡義治(伊那谷自然友の会)

※会場の出入りは自由ですので、興味のある報告のみ参加することも可能です。

建築家 安藤 忠雄さん

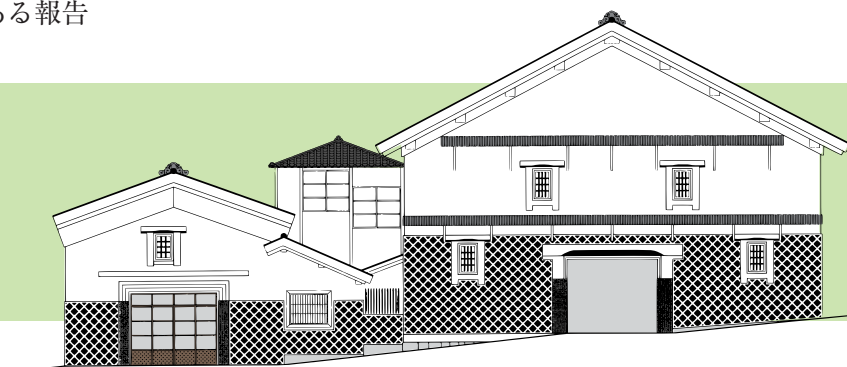


1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。環境との関わりの中で新しい建築のあり方を提案し続けている。代表作に「住吉の長屋」(79年日本建築学会賞)、「六甲の集合住宅」、「同潤会青山アパート建替計画(表参道ヒルズ)」などがある。

- ▶場所 追手町小学校講堂(登録有形文化財)
- ▶参加費 500円(2日間、資料代)
※高校生以下無料
- ▶主催 飯田市・教育委員会・歴史研究所・美術博物館・図書館
- ▶問い合わせ 歴史研究所 53-4670
※駐車スペースには限りがあります。なるべく公共交通機関を御利用ください。

会場内では様々な催しを行います。講演や報告の合間にお楽しみください。

- ・パネル展示「飯田建造物図集」
- ・アートパフォーマンス
- ・ミニコンサート
- ・書籍販売



第3講座

9月16日(土)・17日(日)

歴史を活かしたまちづくり

講師：西村 幸夫 さん (東京大学教授)

飛騨古川、函館、舞鶴、石見銀山など、歴史を活かした魅力的なまちづくりの実践事例を紹介し、自分たちのまちでもまちづくりを展開する手がかりを考えます。また、2004年に制定された景観法の仕組みや意義について、各地での景観法制定後の動きを事例に考え、景観法がもたらすまちづくりの新しい可能性をさぐります。欧米諸国における景観まちづくりの仕組みや考え方、運用方法についても、具体的な実践例を紹介しながら論じます。

■時 間

1日目(土) 13:30～17:00

2日目(日) 10:00～14:30

※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■会 場

飯田市歴史研究所(飯田市上郷支所庁舎)

3F会議室

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)

※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1000円)

■申込方法 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。

※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

2006年度 講座予定

※詳細は追って御案内します。

講 座	講 師	分 野
第4講座 12月16日・17日	陣内秀信さん(法政大学教授)	建築史・都市史
第5講座 1月20日・21日	大口勇次郎さん(お茶の水女子大学名誉教授)	日本近世史
第6講座 2月17日・18日	杉森哲也さん(放送大学助教授)	日本近世都市史
第7講座 3月17日・18日	久留島典子さん(東京大学史料編纂所教授)	日本中世史

講座
予告

国際ラウンドテーブルを開催しました



6月10日(土)、飯田市役所りんご庁舎において、国際ラウンドテーブル「伝統社会と地域」を開催し、次の5つの小報告をもとに、「地域論」に関する意見交換を行いました。

- ・近世嶋田村における地域構造理解へのアプローチ(多和田雅保 研究員)
- ・中国天津市の形成と発展の地域特徴(張利民 中国天津社会科学院歴史研究所長)
- ・歴史的建造物調査から見る地域史(金澤雄記 研究員)

- ・朝鮮後期地域社会の構造(金炫榮 韓國國史編纂委員会研究員)
- ・長野県下伊那郡上郷村村会議員選挙・村長選出・村政の動向(鬼塚博 研究員)

地域史を研究する方法は、決して定まったものではありません。研究対象や問題関心、研究の進展具合などに応じて多様な筋道があります。国を隔てた場合は、研究方法の違いはより際立ってくることになります。その場合、他の研究者による事例を知ることによって、自分自身の研究方法をふりかえり、さらに深めていくことが極めて重要となります。

このラウンドテーブルでは、東アジア3国の伝統社会に関する地域把握の方法を互いに紹介しあい、白熱した意見交換を行うことができました。研究所では今回の成果をもとに、「地域論」を今後も深めていきたいと思えます。

なお、このラウンドテーブルは、(財)トヨタ財団2005年度研究助成の研究計画に基づいてなされました。

研究員会議のお知らせ

毎年8月、歴史研究所の今後の研究・事業計画について話し合う研究員会議を公開実施しています。興味のある方はどなたでも傍聴することができます。事前の申し込みは不要ですので、お気軽に御参加ください。

▶日 時 8月26日(土) 午前9時～正午

▶会 場 りんご庁舎 3階会議室

▶議 題

- 研究員らによる研究計画と共同研究計画の成果と課題
- 研究所の諸活動に関する今後の計画
—特に市誌編さん活動—
- 地域の人々との連携について など

リレーエッセイ

いわもとのりあき
岩本 純明



顧問研究員・東京大学大学院教授。専門は近・現代日本農業史。最近の仕事(共著)として西田美昭・アンワズオ編『20世紀日本の農民と農村』東京大学出版会、2006年がある。

私は現在、農学部で農業史と農学史の講義を担当しているが、受講生の多くは農学部で歴史に関わる講義のあることを想定していない。それ故、歴史を歴史として教えるだけでは、学生の興味を十分に引き出せないというもどかしさを感じ続けてきた。そこでここ数年は、日本の近代経済発展の推移とその要因を、産業化の軌道になかなか乗れない途上国と比較しながら話すことにしている。農学部の学生の多くが、途上国の現状には大きな関心を持っているからである。歴史研究には比較史的なアプローチが有効であるが、私が研究をスタートさせた時代の比較の軸は、イギリスを中心とする西欧社会であった。その結果、日本社会の「歪み」や「遅れ」が強調されることになった。しかしこうしたアプローチだけでは、途上国開発に関心を持つ学生の知的関心に

応えることは難しい。また開発論や比較制度論の領域で使われている概念には、歴史研究(とくに経済史研究)にとっても有益なものが少なくない。また、開発論のタームを活用して整理された歴史研究の成果は、途上国の現状分析に携わっている研究者にも有益であろう。

こうしたことを考えながら、インドネシア中部ジャワ農村での定点観測をこの8年ほど継続している。その成果を、自らの歴史研究に生かすことはまだできていないが、大塚久雄氏のいう「横倒しされた歴史」としての途上国研究の面白さを味わっているところである。

日本の民家と本棟造

金澤 雄記 (かなざわ ゆうき・研究員)



月例研究会レポート



日本の民家は風土や産業を背景とした地方色豊かな建築です。主に農家では「～造」と名付けられた特色ある主屋があります。信州にも「本棟造」と呼ばれる独特の形式の建築があります。そうした日本の代表的な民家を取り上げ、本棟造との比較を行い、位置付けと特徴をお話ししました。

農家の主屋は広い土間と「広間型」もしくは「田の字型」と呼ばれる平面を持つ「直屋」と呼ばれる寄棟造茅葺が基本形と考えられます。それが気候の影響や室数の需要、養蚕の導入により、建物の形状が変化し、地方色が現れる過程を見ていきました。例えば東北地方の寒冷地では馬の保護と入口の確保のため「曲がり家」や「中門造」があり、九州地方の温暖地では熱のこもる土間を分棟にした「くど造」が見られます。養蚕地域では2階部分の採光と通風の需要から「合掌造」や「かぶと造」がうまれました。

本棟造は平面を正方形に近づけ、茅葺よりも身近な材の板葺にしたことから発生しました。当初は豪農庄屋階級にのみ許された格式ある形式です。今後飯田下伊那の本棟造を調査研究し、皆様と討論する機会を設けたいと思います。また今年一年をかけて座光寺地区の本棟造と養蚕民家を中心に調査を行いますので皆様の御理解御協力をよろしくお願いいたします。

歴研ゼミだより 6月・7月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史 ゼミ	6月6日	用水をめぐる嶋田村と山村の対立	■テーマ	近世下伊那の民衆生活史
	6月20日	隠居分家する際の取り決め	■開催日	隔週火曜日
	7月4日	嶋田村の用水訴訟手続きからみる人的結合	■時間	午後7時～8時40分
	7月18日	飯田藩における手代の役務	■担当	多和田雅保(研究員)
近現代史 ゼミ	6月8日	古島敏雄著『台所用具の近代史』を読む	■テーマ	地域社会史入門～飯田町の記憶を探る
	6月22日	堀口樹富さんの聞き書き	■開催日	隔週木曜日
	7月13日	研究報告「昭和初期の商工業者層」	■時間	午後7時～8時40分
	7月27日	大正13年南信新聞記事調査報告	■担当	田中雅孝(調査研究員)
現代史 ゼミ (英語文献講読)	6月7日	アイデンティティに関する諸問題	■テーマ	地域社会とグローバリゼーション
	6月21日	森本家文書 Mahendra Pratapから森本洲平への手紙	■開催日	隔週水曜日
	7月5日	時報・村報と「満洲」移民	■時間	午後7時～8時30分
	7月19日	イデオロギーとしてのナショナリズム	■担当	鬼塚 博(研究員)

★各ゼミとも歴史研究所研修室で行っています。お気軽にご参加ください。
★今後の日程については、次頁の「8月・9月のスケジュール」をご覧ください。

『資料集 時報・村報にみる「満洲」移民』



戦前、旧村ごとに発行されていた新聞「時報」や「村報」に、満洲移民に関する記事が多数掲載されています。それらの記事を集めて資料集として発刊しました。
定価1000円/A4判 404頁
飯田市歴史研究所 編
2006年5月30日発行

『歴史研究所年報④』



第3回飯田市地域史研究集会シンポジウム「古島敏雄の人と学問」の講演記録や、地域史研究の成果を多数収録しています。
B5判 218頁
飯田市歴史研究所 編
2006年8月22日発行
※飯田市内書店でも販売。

販売所 歴史研究所、市役所庶務課行政資料コーナー
(宅配希望の方は、実費で発送を承ります。)

問い合わせ 飯田市歴史研究所
☎ 0265-53-4670

歴研日誌

6月

- 6日 近世史ゼミ
- 7日 現代史ゼミ
- 8日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 10日 国際ラウンドテーブル「伝統社会と地域」
伊賀良三枝一也さん聞き取り調査
- 11日 ラウンドテーブル参加者市内巡見
- 14日～7月5日 市行政文書移管
- 17日～18日 飯田アカデミア第26講座「「西洋事情」と日本」開催。講師は近藤和彦さん(東京大学教授)
- 20日 近世史ゼミ
- 21日 現代史ゼミ
- 22日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 24日 月例研究会「日本の民家と本棟造」(金澤研究員)
伊賀良三枝一也さん聞き取り調査

7月

- 4日 近世史ゼミ
- 5日 現代史ゼミ
- 6日 下久堅宮井家建物調査
- 4日～12日 平沢文書保存処置
- 8日 2006年度研究助成申込期限(5件応募)
伊賀良三枝一也さん聞き取り調査
- 8日～下殿岡区有文書借用調査
- 13日 座光寺史料調査
山本支所「蔵」文書保存処置
- 14日 柏心寺最終調査
- 15日～16日 飯田アカデミア第27講座「20世紀日本の農民と農村」開催。講師は森武磨さん(顧問研究員・一橋大学教授)
- 17日 松尾佐々木良さん聞き取り調査
- 18日 近世史ゼミ
- 19日 山本支所「蔵」文書保存処置
下久堅宮井家建物調査
現代史ゼミ
- 20日 旧南信濃村役場文書現状記録調査
- 24日 現代史ゼミ
- 27日 座光寺史料調査
座光寺建造物調査
近現代史ゼミ

8月・9月の催事スケジュール

8月	2006	9月
火	近世史ゼミ	1 金
水	現代史ゼミ	2 土
木		3 日
金		4 月
土		5 火 近世史ゼミ
日		6 水 現代史ゼミ
月		7 木
火		8 金
水		9 土
木	近現代史ゼミ	10 日
金		11 月
土		12 火
日		13 水 近現代史ゼミ
月		14 木
火	近世史ゼミ	15 金
水		16 土 アカデミア
木		17 日 アカデミア
金		18 月
土		19 火 近世史ゼミ
日		20 水 現代史ゼミ
月		21 木
火		22 金
水	現代史ゼミ	23 土
木	近現代史ゼミ	24 日
金		25 月
土	研究員会議/研究集会	26 火
日	研究集会	27 水
月		28 木 近現代史ゼミ
火		29 金
水		30 土
木		31

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日